

令和7年度 菩提山城跡発掘調査 現地説明会資料

令和8年1月25日 垂井町教育委員会

○はじめに

菩提山城跡は、西濃地域最大級の山城、江濃境目の城、稀代の名軍師 竹中半兵衛の居城として知られています。

垂井町では、国史跡指定を目指した総合調査を進めており、今年度は主郭、副郭及び台所曲輪で発掘調査を実施し、大きな成果を得られました。

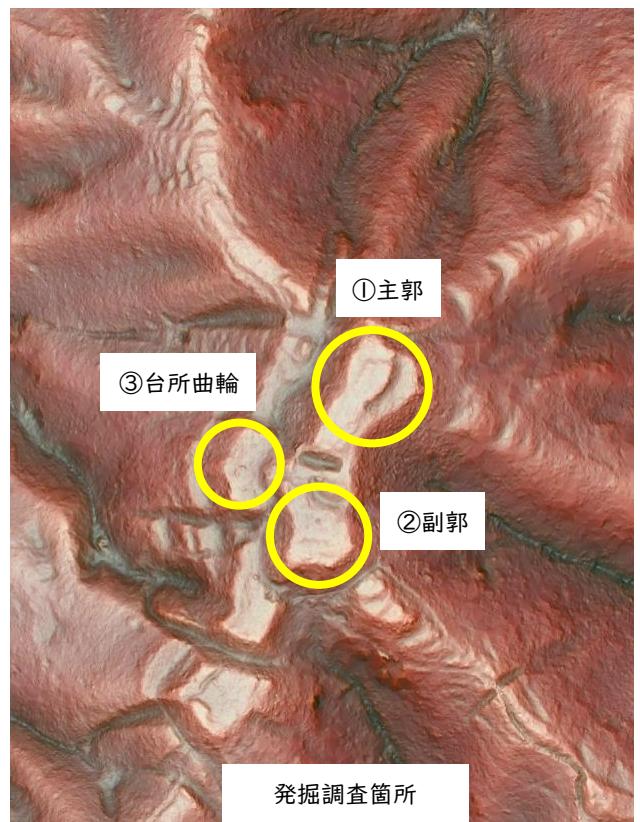
I 発掘調査概要

所在地 岐阜県不破郡垂井町岩手地内

調査期間 令和7年9月～12月

調査箇所及び成果概要

- ①主郭(約64m²) 曲輪造成状況及び礎石を確認
- ②副郭(約 59 m²) 曲輪造成状況を確認
- ③通称「台所曲輪」(約 17 m²) 曲輪造成状況を確認



2 調査成果詳細

(1) 曲輪の造成状況等を確認

①主郭

(A) 3時期の遺構面を確認しました。出土遺物等から、最下層面は岩手氏【註1】の時期(16世紀中頃)、第2、3面が竹中氏【註2】以降の時期(16世紀後半頃)である可能性が高いと考えられます。特に第2面は、大規模に造成が行われ、礎石も据え付けられていることが分かりました。

(B) 昨年度確認した居住施設(御殿)の規模が判明しました。昨年度の4間×4間から南に2間分、さらに南と西側に半間分の庇を確認し、現状の規模は南北6間東西4間(南・西半間庇)になりました。

(C) 上記(B)の居住施設(御殿)とは別の建物のものと考えられる礎石を確認しました。この礎石は最上層面に穴を掘って据え付けられていると思われることから、(B)の居住施設(御殿)よりも新しい建物と考えられ、主郭に2時期の礎石建物が存在していた可能性が高まりました。

(D) 第2面の大規模造成及び礎石据付と切岸【註3】が同時期に造られたことが分かりました。このことから礎石建物(居住施設)と大規模な切岸(防御施設)が併存していたことがわかりました。

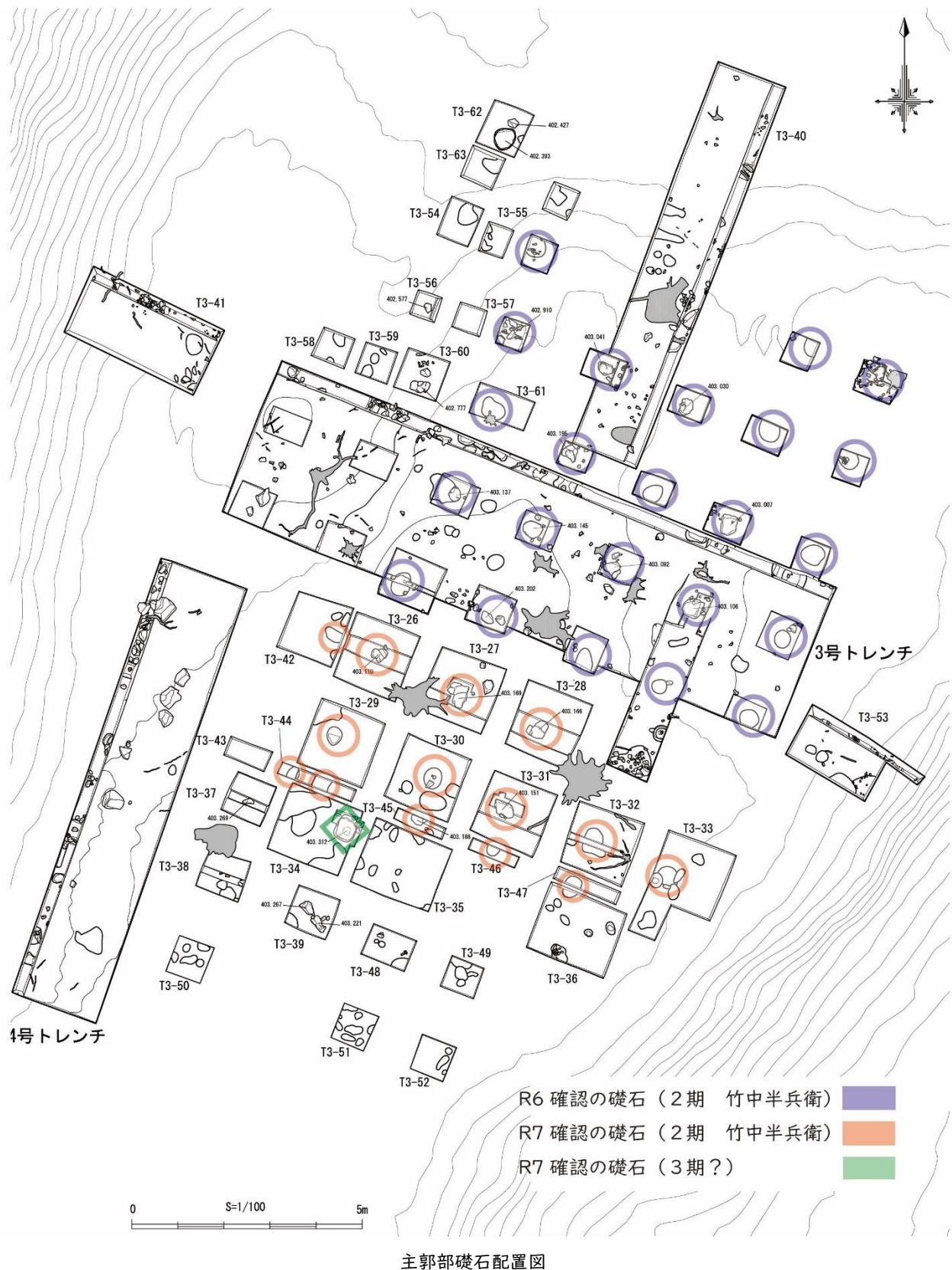
(E) 最下層面に伴い、原位置は保っていないものの、小円礎が多数出土しました。最下層の第1遺構面に帰属するものであり、小円礎を伴うような遺構(庭園?)が存在した可能性があります。

②副郭

- ・土層が主郭と対応すること(3時期の遺構面)、また、地形変換部(切岸の肩付近)に集中的に礫が込められている状況を確認しました。特にこの地形変換部に集中的に礫を入れる造成方法は、他の曲輪でも確認されており、菩提山城独自の造成技術の可能性があります。

③台所曲輪

- ・曲輪造成の状況を確認しました。地山を段状にカットして曲輪を成形したり、平坦地に礫を大量に込めて造成していることが分かりました。





主郭 磁石の様子(遠景 北から)



主郭 磁石の様子(その1)



主郭 磁石の様子(その2)



主郭 磁石の様子(その3)



主郭 磁石の様子(その4)

(2) 約 400 点の遺物が出土

・曲輪の造成土中から多くの遺物が出土しました。かわらけ(素焼きの皿)、国産陶器(天目茶碗、擂鉢、瀬戸美濃灰釉皿)、中国産陶磁器(染付碗、青磁、白磁)、碁石、土錐(土製の漁網の重り)、鉄製品(刀子、釘)、古銭などが確認されています。大変珍しい中国産の天目茶碗の可能性があるものがあります。



(3)まとめ

今回の調査で、竹中半兵衛の時期の山上御殿の規模が判明しました。また、その礎石建物と大規模な造成によって造られた切岸が同時期に併存することが分かり、居住施設と防御施設を併せ持つ菩提山城の実態を明らかにすることができました。

【註】

- (1) 現在の垂井町岩手地域を本拠とした在地領主(地域に土着した支配者)で、15世紀初め頃から文献に登場する。天文13年(1544)の古文書には美濃国守護土岐氏から菩提山城の守りを固めるように命じられており、同城を管理する役割を担っていたと考えられる。土岐氏の他にも近江の六角氏、浅井氏とも関係を有し、美濃・近江の国境の在地領主として存在感を発揮した。
- (2) 元は大野郡公郷大御堂(現大野町)に本拠を持つ在地領主で、永禄元年(1558)に竹中重元、半兵衛(重治)親子が菩提山城から岩手氏を追放し、城主になった。半兵衛が天正7年(1579)に没した後は、息子の重門が竹中氏を率い、慶長5年(1600)の関ヶ原合戦では東軍として参戦している。
- (3) 斜面を削って人工的な急斜面の断崖とし、斜面下からの敵の侵入を防ぐために造られた防御施設

菩提山城関連年表

応仁元年(1467)	岩手孫四郎に土岐成頼から感状
永正15年(1518)	岩手四郎三郎長知に土岐政房から安堵状
天文4年(1535)?	岩手弾正忠へ六角定頼から書状
天文13年(1544)	竹中半兵衛重治、大御堂城主 竹中重元の子として生まれる。
同年	美濃国守護土岐頼芸が岩手弾正に書状を出す(菩提山城初見)
永禄元年(1558)	重元、不破郡の岩手氏を攻め、岩手一帯を領有する。
永禄2年(1559)	重元、菩提山に城を築く。安ハ西保城主、不破光治の襲撃を撃退する。
永禄5年(1562)	重元没し、半兵衛が家督を継ぐ。
永禄7年(1564)	半兵衛、稻葉山城を奪取
永禄11年(1568)頃	半兵衛、信長に仕える。羽柴秀吉とともに近江攻めに加わる。
天正7年(1579)	半兵衛、播磨三木陣中で没す。
天正16年(1588)	半兵衛の息子、重門が家督を継ぐ。
慶長5年(1600)	関ヶ原合戦
江戸時代前半頃	廃城?

【謝辞】

本調査においては、地権者様、岩手地区の皆様及び総合調査検討委員の皆様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町 2443-1 垂井町教育委員会 タルイピアセンター 学芸企画係
TEL:0584-23-3746 FAX:0584-23-3745 E-mail:taruipia@town.tarui.lg.jp



半兵衛たるびくん